



コンテナ内にインストールされるのは5.1chシステムで、スピーカーはすべて天吊り。55インチ直投型と約90インチ投写型ディスプレイの2ウェイシアターだ。冷蔵庫や換気システム、商用電源などが完備されており、いわゆるコンテナハウスのホームシアター版だと言える。

SPEAKER SYSTEM

# ECLIPSE TD307MK3

¥55,000 (ペア) 税込

- 型式:フルレンジ1スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:65mmコーン型フルレンジ ●出力音圧レベル:80dB/W/m
- インピーダンス:8Ω ●寸法/質量:W135×H212×D184mm/2kg ●許容入力(定格/最大):12.5W/25W
- 問合せ先:科テンソールお客様相談窓口 ☎0120-02-7755



## 部屋からスピーカーまでをセットにした「コンテナシアター」という新提案

サウンドシステムのスピーカー選びを突き詰めて考えれば、すべてのスピーカーが同一であることが望ましい。これは本誌で度々言及していることだが、その実現はなかなか難しい。この点を現実的に考えれば、はじめから小型のスピーカーシステムを導入すれば「すべて同一」のシステムは叶いやすいと言える。ここでは、そのひとつの理想形の実現を請け負ってくれるホームシアターインストーラーをご紹介します。

取材/本文:本誌・楠沼

スピーカー選びを考える場合、多くの方は音質や外観の好みと予算とのバランスを検討していくことになるだろう。しかし、それらに加えて検討すべき重要なポイントがある。それが部屋とのマッチング。どんなに素晴らしいスピーカーでも、正しくセッティングできず、スペースを確保できないならば、素晴らしい音が発せられない可能性があるからだ。そもそも大きな製品となると物理的に部屋に入れることが困難という場合もある。

部屋にマッチするスピーカーとはいかなるものか、製品の特性にもよるのでなかなか判断が難しいところだが、そうした提案や必要に応じて施工・設置などを請け負ってくれるのがホームシアターインストーラーと呼ばれる方々ということになるだろう。今回は部屋とサウンドシステムをまとめてプランニングする新提案をご紹介します。それが写真の「コンテナシアター」だ。

その名の通りコンテナをそのまま部屋として使うホームシアターで、電気工事、内装、サウンドシステムの提案と設置という基本だけでなく、太陽光発電システムとバッテリー、V2H (Vehicle to Home) 車から家へ)と呼ばれる電気自動車用の電気を家庭で使うシステムの導入も可能。災害時など、もしもの場合に独立した電源を確保できるのがV2Hのシステムの特徴だ。

この提案をしているのは、宮崎県都城市の木田電業。本誌でも何度かご紹介しているが、元来の専門である電気工事を得意とするホームシアターインストーラーだ。

コンテナ形式のメリットは、まず既存の部屋にとらわれないこと。限られた自宅スペースの中で一部屋分を確保するのが普通だが、このコンテナを庭などに置くことができれば、そうした心配をする必要はない。

また、施工は木田電業がワンストップ

で行ない、コンテナごと全国に納入するため、細分化された業者間で施工の齟齬が生じるようなこともない。これも部屋づくりにおいては得難いメリットだ。

さらに、自宅にオーディオビジュアルの専門部屋つまりホームシアターをつくらうとする場合、新築やリノベーションに乗じて検討することが多い。そうなるとうしても他の工事との兼ね合いで日程調整が必要になるが、このコンテナホームシアターであればそうした煩わしさが少ない。これは施工する側のメ

リットがあるだけでなく、施工としてもスムーズに工事が進むという大きなメリットがあることなのだ。

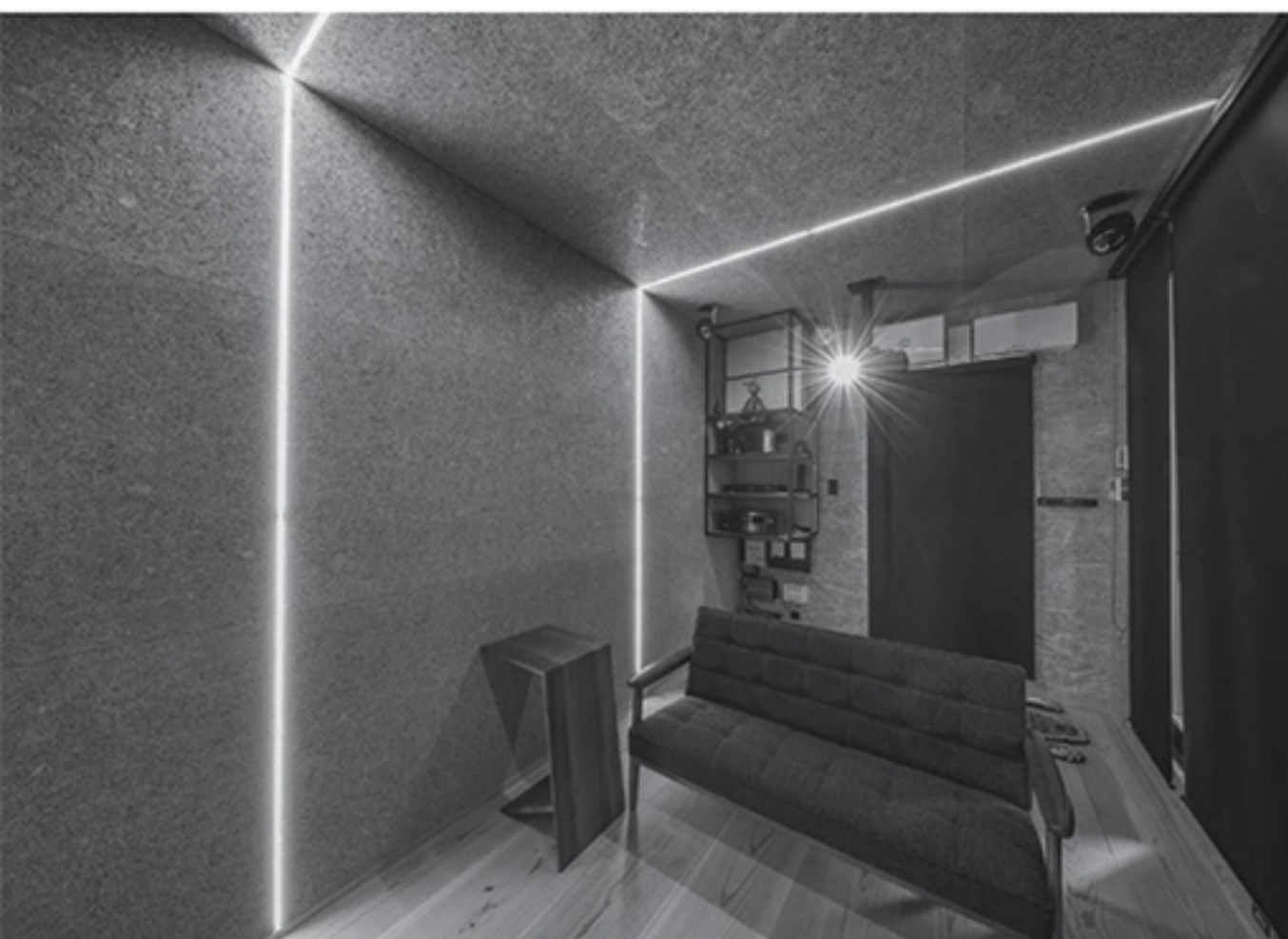
### 限られた空間を最大限活用した同一スピーカーの5.1chシステム

取材したのは、木田電業都城ショールームに展示されたコンテナ。屋根に太陽光発電パネルを備え、V2Hシステムも導入されている。コンテナの横には全面が開放できるサッシが取り付けられ、そのままデッキへと通じている。さながら



▲このコンテナシアターは木田電業の都城ショールームすぐそば。外装塗装、内装仕上げ、AV機器などもカスタマイズ可能で、価格・納期は応相談。兼販も受けつけている





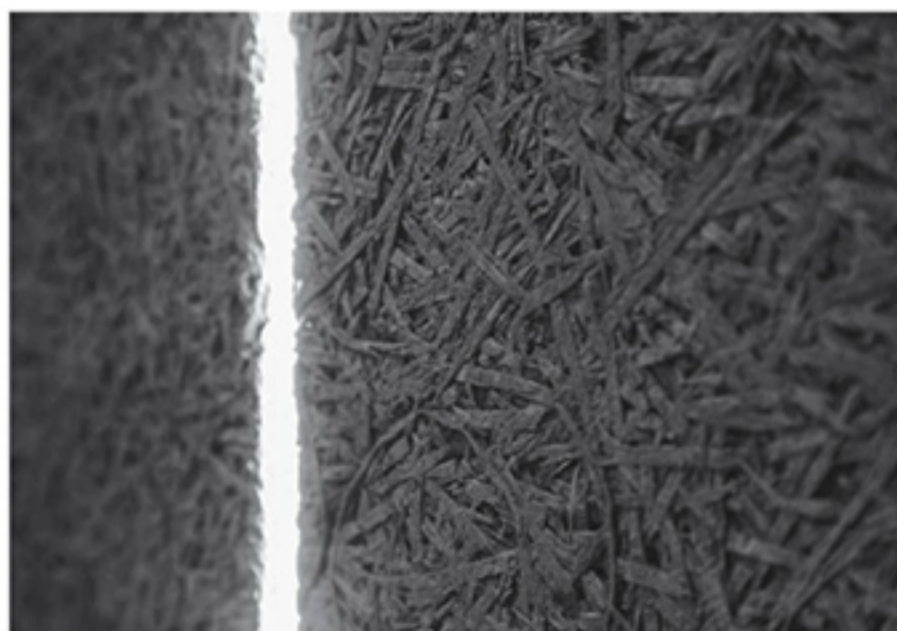
▲画面の逆側がコンテナの入り口。プロジェクターも天吊りで、JVCのLX-NZ3。AVセンターなどのハードウェアはつくり付けのラックに収まっている



▲サラウンドスピーカーもイクリプスのTD307MK3。リスニングポイントに向けて角度調整済み。配線はすべて壁、天井内に隠蔽されており、このあたりの納置を仕上がりガインストーラーの技だ



▲照明や空調のほか、電力の管理、ネットワークカメラやセキュリティシステムなど、すべてがグレストロンのホームオートメーションシステムで制御される



▲壁には「木毛セメント板」と呼ばれる建材を仕上げ材として使用。吸音、遮音性能を期待できるという。その間にはLED照明が仕込まれる。なお、コンテナの内側には吹き付けの断熱材が配されており、そこに木材で枠が組まれている



▲コンテナシアターの入り口付近に設置されていた、全天候型のスピーカー。上記ネットワークカメラなどもそうだが、趣味のオーディオビジュアルに止まらない家庭内のさまざまなシステム提案を行ってくれるのが木田電業ならではの



▲壁の片側が全面開放できるよう、サッシが取り付けられているのもオプション仕様。プロジェクター使用時はロールスクリーンを使って遮光できる。なお、スクリーンはコンテナの幅ギリギリに合わせたオーエスの特注品。空調を埋め込むためにふかした天井部分を利用し、電動式が収納されている



Shop Information

木田電業

〒889-1801 宮崎県都城山市山之口町富吉4192-4  
☎0986 (57) 4305  
https://kida-dengyo.com/  
定休日：水曜日 営業時間：10～18時

◀木田電業都城ショールームには、一般的なホームシアターを体験できるシステムも完備されている。写真はTD307MK3とTD506MK3が併設されたマルチチャンネルシステム。これらの聴き比べも可能だ

ら気軽にキャンブ気分を味わえるグランピング施設の様相。このコンテナはショールームという性質上いわばフルオブション状態だが、よりシンプルな依頼ももちろん可能。部屋に設置するハードウェアなどを含め、じっくりと相談するといいたいだろう。

ホームシアターシステムに目を向けると、設置されているスピーカーはイクリプスTD307MK3とTD520SWによる5.1chシステム。木田電業はイクリプスのスピーカーに惚れ込み、同ブランドの「パトナー店」として活動しており、この新製品も早速取り入れていくというわけだ。イクリプス最小サイズのモデルを選んだのは、コンテナという限られたスペースを最大限活用するという理由もある。利用する20フィートコンテナはサイズが決まっただけで、内部の広さは約幅2.3m×長さ5.8m。特に幅が取れない中で画面サイズと広い音場を確保するためのソリューションという側面もあるのだ。

ただコンパクトというだけでなく、Tランドの「パトナー店」として活動し、この新製品も早速取り入れていくというわけだ。イクリプス最小サイズのモデルを選んだのは、コンテナという限られたスペースを最大限活用するという理由もある。利用する20フィートコンテナはサイズが決まっただけで、内部の広さは約幅2.3m×長さ5.8m。特に幅が取れない中で画面サイズと広い音場を確保するためのソリューションという側面もあるのだ。

D307MK3に付属するスタンド兼ブラケットで自在に角度調整できることもこの設置性に寄与している。さらに、従来モデルからの改善点として、この角度調整が六角レンチ一本でできるようになったことも見逃せない。インストーラーの木田弘信さんによれば、その効果は間違ってなく、配線が隠れやすい構造になったことも施工する側として嬉しいポイントだそう。

90インチ相当のスクリーンに映像を写し、5.1chの再生をすると、やはり同一スピーカーで揃ったサラウンドシステムのよさを如実に感じさせる。スムーズなスピーカー間のつながりで、コンテナという空間を必要十分に満たしてくるのだ。部屋とのマッチングも考慮してトータルで設計されたシステムとしてのよさとも言えるかもしれない。

庭などに相應のスペースが必要になるが、オーディオビジュアル用の部屋づくりとスピーカー選びを並行して検討しているならば、この「コンテナシアター」を検討されてみてはいかがだろうか。